

小田原市では、橘地域に保育所がない状況や橘地域の公立幼稚園の園児減少を踏まえ、下中幼稚園の敷地に令和8年4月開園を目的に、公立認定こども園の整備を予定しています。公立認定こども園の早期開園に向け、今後の設計や建設工事の諸課題を整理するため、「(仮称)橘地域認定こども園整備基本計画」を取り纏めました。

1 施設のコンセプトと基本方針

コンセプト

子ども主体の教育・保育の実践を通じ、
主体性や創造性などを育む質の高い幼児教育・保育を提供する。
橘地域の恵まれた自然と触れ合い、木のぬくもりに包まれながら、
地域のひとたちや学校と連携し、地域に根差した活動を行う。

基本方針

子どもたちの主体性や創造性を伸ばし育むことができるとともに、使いやすく安心・安全な施設とすることを基本とし、子どもたちにとって温かみやぬくもりが感じられるとともに、公共建築物として脱炭素化社会の実現に資する施設整備を目指します。

(1) 安心・安全でぬくもりやゆとりが感じられる施設

- ・教育・保育に適したゆとりや安心・安全が確保できる施設
- ・地域産木材を利用し、木のぬくもりが感じられる施設
- ・職員同士の連携、協働が取りやすく働きやすい施設

(2) 教育・保育の質的向上が図れる施設

- ・支援の必要な子どもの保育がしやすい施設
- ・子どもが自ら主体的、継続的に遊びができる施設

(3) 保護者、地域、学校等との連携がしやすい施設

- ・子育て相談や支援機能を持ち、園務システムなどICT等の活用により、保護者や地域との情報共有や連携が図りやすい施設
- ・地域に溶け込んだ活動がしやすい施設

(4) 地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に寄与する施設

- ・省エネ・創エネ機能を積極的に取り入れたZEB Oriented（正味エネルギー排出を30～40%以上削減した建築物）化相当以上の施設

2 敷地概要

建物用途	認定こども園（幼保連携型）
工事場所	神奈川県小田原市小船174-1ほか
工事種別	新築
用途地域	第1種住居地域
建ぺい率/容積率	60 / 200 %
防火地域	準防火地域
その他の地区・地域	第2種高度地区 景観計画区域 居住誘導区域



3 施設計画

配置イメージ

採光や園庭との繋がりに配慮するとともに、駐車場や駐輪場からエントランス部へのアクセス性や安全性を考慮し北側に施設を配置します。



施設規模及び必要諸室

公立認定こども園として支援が必要な児童等に配慮するなど、余裕を持った計画として面積を算定しました。
(※面積については現段階における想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。)

必要諸室	面積
乳児室、ほふく室、保育室、遊戯室 園児用トイレ、クールダウン室	470㎡
調理室・保健室・職員室調理室	105㎡
付帯施設・共用部分（図書コーナー、休憩室、玄関、倉庫等）	335㎡
子育て支援機能（一時預かり保育機能、相談室）	55㎡
合計	965㎡
園庭	450㎡
屋外施設（駐車場・駐輪場） ※保護者用送迎駐車場は、敷地外に別途整備します。	—

定員数の設定

橘地域の就学前児童人口や市外の教育・保育施設への就園状況を踏まえるとともに、認定こども園として適切な集団規模を形成できる定員数とします。

定員構成（人）	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
保育部（保育認定）	5	10	10	12	13	13	63
幼稚部（教育認定）	—	—	—	9	10	10	29
合計	5	10	10	21	23	23	92

4 事業計画

建物の構造と整備手法

本施設は、環境に配慮した施設計画とするため、木のぬくもりが感じられるなど、木材の持つ断熱性や調湿効果、情緒安定効果に加えて、脱炭素化や事業費の縮減にも繋がる木造での園舎整備を目指します。整備手法は、木造・ZEB・耐火への対応など施工者の技術力・ノウハウ等を設計段階で活用できること、事業者提案によるコスト削減や工期短縮が期待できること、導入機器等を踏まえた設計や納期を見込んだ発注ができるなどメリットが多い「設計施工一括発注方式（デザイン・ビルド方式）」を採用します。

事業スケジュール

本基本計画を基に、令和5年度は設計・施工を行う事業者の選定を行い設計作業に着手します。

既存施設（下中幼稚園）の解体は令和6年度に実施し、建設工事に着手。令和8年4月の開園を目指します。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本計画	■				
設計		■ 事業者選定	■		
建築工事				■	● 開園
解体工事			■		